



学びと誇りが実感できるまち

～家庭で子供たちと対話を！～

令和2年8月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

月に柄をさしたらばよき団扇かな (山崎宗鑑)

本年度は、子供たちの夏休みが大変少なくなっていますが、マスクの着用、手洗いの励行、換気を十分行うなど、新しい生活様式の中で、元気に学校生活を送っています。授業や学校行事、部活動には、内容・方法・活動に制約がありますが、各学校では、「できない」という考えではなく、「どうやったらできるか、課題を乗り越えられるか」ということを基本に考え、子供たちの意欲を喚起し、自ら進んで学習や活動ができるよう工夫を凝らした取り組みを行っています。

さて、今回は、家庭において親や家族が子供たちにしっかり向き合い、その日の出来事などを話題にして対話をさせていただきたいことです。

家庭における対話は、子供の健やかな育ちの基盤となります。子供たちは、学校での活動や様子をはじめ、先生や友達のこと、日頃から思っていること、学んで理解したこと、新しく発見したことなど、さらに、何かの問題と向き合い悩んでいること、相談したいことなど、家族の人たちと少しの時間でも話をしたい気持ちをもっています。子供が話しかけてきたときは「忙しいから後で！」と言わずに、しっかり受け止めて話を聞いてください。

次の作品は、広島県PTA連合会発表 令和元年度「家庭で話そう 我が家のルール 家族のきずな 命の大切さ」三行詩の「優秀賞」の作品です。

○ 西城小学校 第6学年 市村 柊冴

夜7時 家族が集まる ばんごはん
「わはは」と まるで お笑いげき場
ぼくの大好きな 家族の時間

○ 東 小学校 第2学年 小川 弘将

ママが 笑ったら ぼくも笑う
パパが 笑ったら ぼくもまねする
妹が 笑ったら もっとあそんであげたくなる
みんなが笑うと しあわせになる

家族みんなが心を通わせ、明るく笑顔あふれるひと時の様子が伝わってきます。きっと話もはずんでいられるのでしょう。是非、子供たちと一緒に過ごす時間を見つけ、対話の機会をつくりましょう。